

1. 概 要

□平成10年度

◎職員の変動

- ・ 長谷川勉事務掛長が京都工芸繊維大学会計課給与共済係に転出、吉岡正文事務主任が事務掛長に昇任、清水恒和事務主任が基礎物理学研究所会計掛から着任(平成11年4月1日)。
- ・ 村上知里・佐藤路子・金城その子D1, ソントン久代M1が入学(平成11年4月1日)。
- ・ 今里哲久教授(併任)が停年退職(平成11年3月31日)。
- ・ 堀道雄教授が併任教授に就任(平成11年4月1日)。

◎行事・来訪者

- ・ 国立大学臨海臨湖実験所長会議(春季)(於お茶の水女子大学国立教育会館, 東京), 白山義久所長出席(平成10年4月21日)。
- ・ 台風7号で被災(9月22日)。
- ・ 日本学術振興会招聘外国人研究者としてスセチオノ氏(インドネシア科学院・海洋学研究開発センター副所長)来日(10月1日-30日)。
- ・ SCUBA用の高圧ガス製造施設を廃止(10月6日付)。以後, SCUBAボンベの充填は外注。
- ・ 日本学術振興会特定国派遣研究者として、宮崎勝己助手ポーランド外国出張(10月5日-平成11年10月6日)。
- ・ 瀬戸臨海実験所年報第11巻, Publications of the Seto Marine Biological Laboratory 第38巻第3/4号発行(平成10年12月25日)。
- ・ 水族館休館(平成10年12月29日-平成11年1月3日)。
- ・ 水族館開館(1月4日)。
- ・ 高度化推進特別経費にて3D顕微鏡を購入(2月中旬)。
- ・ 特別設備(高度生物微細構造解析システム)購入(3月23日)。

2. 臨 海 実 習

□平成10年度

例年の通り、京都大学理学部をはじめ諸大学の臨海実習が下記の通り実施された。

(大学・実習科目・実習期間・受講学生数)

京都大学理学部生物系臨海実習 I	9.2-9.9	延 136人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 II *	3.9-3.15	延 28人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 III *	3.15-3.20	延 30人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 IV	9.3-9.9	延 21人・日
京都大学大学院人間環境学研究科海洋生物学実習	2.23-2.26	延 56人・日
京都大学大学院人間環境学研究科海洋化学実習	7.14-7.17	延 48人・日
京都大学総合人間学部地球圏物質環境論実習	8.25-8.28	延 84人・日
京都大学理学部瀬戸臨海実験所公開臨海実習	10.7-10.13	延 49人・日
和歌山大学教育学部生物学臨海実習(植物)	4.27-4.30	延 48人・日
大阪千代田短期大学磯観察実習	5.12-5.14	延 54人・日
奈良教育大学教育学部野外実習A-II(臨海実習)	5.18-5.24	延 147人・日
奈良女子大学理学部臨海実習	5.25-5.30	延 96人・日
岐阜大学教育学部臨海実験法及び実習	6.4-6.9	延 78人・日
和歌山大学教育学部生物学臨海実習(動物)	6.22-6.26	延 65人・日
大阪市立大学理学部臨海実習	7.6-7.12	延 147人・日
大阪教育大学教育学部教員養成課程臨海実習	7.27-8.1	延 72人・日
京都教育大学教育学部生物学夏期実習 II	8.4-8.8	延 190人・日
大阪大学理学部生物学臨海実習	8.17-8.22	延 180人・日

広島女学院大学生活科学部海洋観測実習	8.30-9.2	延 44人・日
* 前年度末に実施		
(計) 京都大学	7件	延 403人・日
公開臨海実習	1件	延 49人・日
他大学 国立	8件	延 876人・日
公立	1件	延 147人・日
私立	2件	延 98人・日
(総計)	19件	延1573人・日

○公開臨海実習は「無脊椎動物系統分類学」と題して学部学生を対象に実施し、筑波大学・新潟大学・京都大学・愛媛大学・九州大学・琉球大学からの学生7名が受講した。

3. 研究会・来訪研究者

下記の研究会が開催された。

○「第19回瀬戸海洋生物学セミナー」

話題提供: Prof. J. Frederick Grassle (Institute of Marine and Coastal Sciences, Rutgers, The State University of New Jersey) "A long-term ecosystem observatory on the continental shelf off New Jersey (LEO-15) and thoughts on global observations of marine biological diversity". (11月9日)

○「第20回瀬戸海洋生物学セミナー」

話題提供: Dr. Dennis P. Gordon (National Institute of Water & Atmospheric Research, New Zealand) "Systematics of the phylum Bryozoa: classification and phylogeny, including the latest findings". (11月14日), "The challenge of marine biodiversity assessment: the New Zealand region as an example". (11月15日)

来訪研究者は次の通りであった。

○平成10年度(1998年4月1日-1999年3月31日)

学内	28名	328日
他国立大学	60名	375日
公立大学	8名	26日
私立大学	25名	123日
国立研究所・博物館	3名	7日
公立研究所・博物館	10名	25日
国内その他	41名	141日

小計	175名	1025日
(内外国人)	5名	17日)
国外	15名	107日

合計	190名	1132日

氏 名	(所 属)
阿部 直哉	(大阪国際女子短期大)
阿部 智子	(広島女学院大生活科学)
鯨坂 哲朗	(京都大農)
乾 風 登	(南紀生物同好会)
Anyi, Yuhana U. L.	(マレーシア理科大, マレーシア)
Arai, Hisao P.	(カルガリー大, カナダ)

氏 名	(所 属)
Arai, Mary N.	(カルガリー大, カナダ)
荒川 純平	(京都大理)
Boss, Siti Z. R.	(マレーシア大, マレーシア)
Chang Shi-Cui	(青海海洋大, 中国)
陳 賜隆	(京都大理)
朱 錦天	(青海海洋大, 中国)
団 まりな	(大阪市大理)